

大学

アーカイヴズ

全国大学史資料協議会東日本部会会報

2017. 10.31 No.57

Japan Association of College and University

Archives : Eastern Japan Division

目 次

・ 松原 太郎「第 104 回研究会（東京大学文書館柏分館）に参加して」	1
・ 堀口 真吾「全国大学史資料協議会東日本部会総会に参加して」	2
・ 大石 弘美「「ガラス乾板の資料学—写真資料の調査・保存・利活用の実際」に参加して」	4
・ 全国大学史資料協議会東日本部会 2017 年度総会議事録	6
・ 全国大学史資料協議会東日本部会幹事会議事録	11
・ 全国大学史資料協議会東日本部会研究会記録	16

2017 年 3 月 9 日（木） 研究会

第 104 回研究会（東京大学文書館柏分館）に参加して

2017 年 3 月 9 日（木）、東京大学文書館柏分館で第 104 回東日本部会研究会が開催された。今回の研究会では、東京大学文書館の概要および実務について森本祥子准教授、加藤諭特任助教、宮本隆史特任助教 3 氏の説明があり、その後、同館の施設を見学した。

森本氏は、東京大学文書館の成り立ちと概要、アーカイヴズと年史編纂との関わりについて説明された。文書館の前身である百年史編集室は 1974 年に設置され、百年史完成後からは大学史史料室となり、2014 年には東京大学文書館が設置され、2015 年には国立公文書館等の指定を受けた。所蔵資料は、法人文書（特定歴史公文書等）、寄贈・寄託資

日本大学企画広報部広報課 松原 太郎

料（歴史資料等）、学内刊行物の 3 種で、学内刊行物は部署の活動が追えるもののみ収集し、研究報告・雑誌等は図書館で管理するという棲み分けが図られている。施設は本郷本館と柏分館の 2 ヶ所にあり、それぞれに閲覧室と収蔵庫が設けられている。

興味深かったのが、資料目録についてである。東京大学文書館では、概要記述（資料群）と詳細記述（資料）の 2 段階の目録を併記してホームページ上で公開している。また、法人文書の資料目録については、作成者情報と資料情報を切り離してリンクさせるシリーズ・システムを採用したという。文書の作成組織に変遷が多い場合、単一の出所のもとに

文書を関連づけるツリー型の階層構造よりも作成者と文書の関係をよりわかりやすく表現することが可能とのことである。今後、同館の資料検索システムが整備されると、さらに目録の編制方法の有効性が明らかとなるであろう。

加藤氏は法人文書の移管について報告された。2016年に文書管理規則が改正され「東京大学文書館」が規則に記されることとなった。しかし、同館は原課に対して廃棄権限を有しておらず、そのため、移管については保存期限満了前の段階で原課が廃棄しないように確認する2段階の訪問型移管方式を採用しているという。

デジタルアーカイブについては宮本氏から説明があり、ホームページ上で概要・詳細目録を公開しているが資料検索が出来ない状況のため、現在、パイロット版を作成中とのことである。東京大学では学内のデジタルアーカイブ等の情報を集約する動きがあり、今後は他のデータベースとの横断検索を可能とするためにも、情報提供を長期的にし続けるこ



報告する森本祥子氏

とに重点を置き、なるべく簡易なシステムを構築していきたいとのことであった。

最後に森本氏から、2027年に150周年を迎える東京大学では年史編纂の検討に着手したが、編纂業務と文書館業務の双方が一体化しないよう、担当を切り分けて進めたいとの発言があった。

森本氏の説明で印象的だったのは、出納・管理ができる資料目録があるならば手書きの目録でも積極的に活用すべきという姿勢である。限られた予算・人員の中で、どのように資料情報を公開していくかという点など、得るところが多い研究会であった。

2017年6月8日(木) 全国大学史資料協議会東日本部会2017年度総会

全国大学史資料協議会東日本部会総会に参加して

2017年度の全国大学史資料協議会東日本部会総会が、6月8日に、淑徳大学千葉キャンパスで開催された。総会終了後、淑徳大学自校教育研究会が自校史教育用に製作した映像「淑徳大学学祖・長谷川良信の生涯」と

創価大学 創価教育研究所 堀口 真吾

「淑徳大学50年のあゆみ」の上映、続いて行われた学内見学会では、2つのグループに分かれて、淑水記念館の学祖展、吉田久一展、特別展、並びに大学アーカイブズ資料庫等を見学し、最後に大巖寺の宝物殿の見学が

行われた。

ビデオ放映「淑徳大学学祖・長谷川良信の生涯」では、生涯にわたり社会福祉事業に専心した創立者（淑徳大学では学祖と称する）長谷川良信先生の生い立ちと、淑徳大学創立に尽力した奮闘の足跡が紹介された。「淑徳大学 50 年のあゆみ」では、大学草創期から 50 年を経た現在に至るまでの淑徳大学の輝かしい歴史とこれまでの活動内容が紹介された。中でも 1 期生の卒業生でもある教員が大学の精神と思い出を現在の学生とともに語り合っていたところが印象的であった。映像は、年代ごとに各章を図書アルバムのような形にして紹介が始まるなど、デザインや構成も素晴らしく、本学の 50 周年の際に参考にさせて頂きたいと HP 等での公開をお願いしてしまった。完成したばかりとのことで、総会参加者のための先んじての上映は大変にありがたかった。

その後の見学会が行われた「淑水記念館」とは、1965 年の開学当初から残っている唯一の建物で、大学の象徴とも言うべき建物であり、2010 年 10 月にリニューアルされたとのことだった。大学のシンボリック的存在の建物に、広い展示スペースをはじめ、資料収集・保存を行っている淑徳大学アーカイブズも入っており、大学当局の資料整理を重視する雰囲気と同部門に対する信頼の深さを見る思いがした。

「学祖展」では、長谷川良信先生の生涯と実績が主に写真パネルで紹介されているとともに、日記、手紙、揮毫類、愛用品等の実物



見学会の様子

資料も見やすく展示されており、創立者の人となり詳しくわかる展示であった。「吉田久一展」では、大学に寄贈された、社会福祉学者吉田久一氏の遺品や写真、講義ノートなどを拝見した。戦前に女性教育に従事された吉田氏の活動を見て、本学の創価教育の源流である牧口常三郎が、当時学ぶ機会が少なかった女性向けに教育を始めたことが思い起こされた。続いて八幡学園を創設した久保寺保久の足跡を紹介する「知的障がい児福祉の先駆け」と題した「特別展」を見学した。常設展をはじめ、企画展のほか、特別展まで同時に開催できる広い施設に感嘆するのみであった。

同建物内の大学アーカイブズ資料庫の見学では、淑徳大学及び学園に関する資料の他に、昭和から平成期にわたる多くの社会福祉関連資料の所蔵の一端を窺い知ることができた。資料庫は創立当初からの円形構造を維持し、数個の小部屋を用途に分けて書庫が作られている。建物が円形のため、書架も中心から外周に向けて設置されている印象的な書架の

配列であった。加重のためか、作業のためか、または円形のためにそのように見えるのか、書架の間隔が比較的広く取ってあるように感じられた。しっかりとカーテン等で遮光され、創立当初からある貴重な建物にすることができて、草創の資料も幸せではないだろうか。歴史ある建造物内に多くのスペースをとり、資料整理に予算を投じている大学当局に敬意を表したい。淑徳大学アーカイブズの皆様には、設立経緯や特色などについて丁寧にご説明いただいたことに感謝を申し上げたい。

最後に訪れた大巖寺の宝物殿は、徳川幕府により関東十八檀林の1つとして保護された由緒ある寺であり、江戸時代にその敷地内であった場所に淑徳大学は建てられている。宝物殿へ向かう途中、「鵜の森」と称する境内

では、先師たちの至言が彫られた碑に迎えられ、宝物殿では、掛軸や絵図、また版木など、大変多くの貴重な品を拝見した。見学後、宝物殿の裏にある慈光保育園からか、園児の可愛い声が聞こえてきて、自然と共に、地域と共にという、大学の建学の精神でもある大乗仏教の「共生」の理念を十分に感じることができた。

今回の見学会では、淑徳大学の特性を活かした施設を訪問し、大学の精神や理念を伝える校舎、展示に触れ、貴重な学習の機会となった。本学も私学であり、数年後の創立50周年を目指し、50年史の編纂がスタートした。創立者の思想、建学の精神、またこれまでの歩みを年史や展示のみならず、様々な角度から残されている淑徳大学に学んで取り組んでいきたい。

2017年7月20日(木) 研究会

「ガラス乾板の資料学—写真資料の調査・保存・利活用の実際」に参加して

青山学院資料センター 大石 弘美

第105回全国大学史資料協議会東日本部会研究会は、2017年7月20日(木)14時より東京大学本郷キャンパスで開催され、東京大学史料編纂所資料保存技術室の谷昭佳氏よりお話を伺った。

青山学院資料センターには、350枚ほどのガラス乾板が収蔵されている。1894年「青山学院」という校名になったばかりの頃、本学で教鞭を執った宣教師ハーバート・B・ジョンソンが撮影し、本国に持ち帰ったガラス乾

板約300枚を、1979年彼の孫にあたるブラッドフォード夫人から寄贈を受け、それまで学院がもともと所蔵していたものと合わせて約350枚を所蔵することとなった。

ガラス乾板とは写真を撮影する際の現在のフィルムにあたるもので、透明ガラスに写真乳剤を塗布し乾燥させた写真感光材料の一種である。イギリスのマドックスが、ハロゲン銀感光粒子の媒体としてゼラチンを用いて完成させた。日本でも明治の初めから昭和の中

期頃まで使用されていたが、現在は科学用など特殊な場合のみ用いられ、一般の目に触れることはほとんどなくなった。当センター所蔵のものは、100年以上たっているため、2002年にゼラチンの剥がれ・ガラスが割れているものを優先して42点を選びだし、修復処理した。翌年には、ガラス乾板そのもの・焼付けた写真・画像取り込みをしてコンピュータ修正したパネルの三種類を一組として公開展示を行った。公開展示をしてから10数年たった今、どのような点に注意して取り扱っていくべきか、どのように保存し、活用していくべきかを探るためにこの研究会に参加した。

東京大学史料編纂所では、ガラス乾板を歴史資料として研究資源化を図るプロジェクト研究が行われており、今回の研究会では、これまでの取り組みとそこから見えてきた成果と課題とについて報告がなされた。大量のガラス乾板を保存する東京大学史料編纂所だからこそ見えてくる点が多々あり、デジタル時代の資料保存の課題にもつながる濃密な内容だった。

一例ではあるが、ガラス乾板をデジタル化し拡大してみると、拡大する前には見えなかったものが、見えてきたことに驚いた。その当時の様子が鮮明に浮かび上がってきたのだ。これは、デジタル化することのメリットだが、デジタル化の場合は、コンピュータ上で修正や加工が可能なため、その作業や劣化・破損などの情報を添付しておかないとオリジナル写真がどのようなものであったのか



研究会の様子

がわからなくなってしまう、というデメリットもある。そのため、作業情報や劣化・破損の情報を添付しておく必要がある。しかし、ガラス乾板であれば、一目でわかる。

また、保存方法として、ガラス乾板そのものの原板が「モノ」として内包している写真技術や劣化の情報とともに、他の様々な情報（撮影目録、資料貸借記録、出張記録など所内の帳簿類）による「制作プロセス」の情報と関連付けることが大切とのお話も伺い、大変参考となった。

最後に、ガラス乾板は、それ自体で持つ情報は限られたものだが、撮影の際の台紙・メモや関係する書類などの情報と組み合わせることにより、今後信頼される資料群として利用することが可能となると思われる。ガラス乾板の「モノ」としての情報をデジタルに置き換え、史料編纂所だけでなく歴史博物館系、図書文書館系、美術館系の他機関と相互に利用できる環境ができることを期待してやまない。

全国大学史資料協議会

東日本部会 2017 年度総会議事録

日 時 2017 年 6 月 8 日 (木)

14 時 00 分～14 時 50 分

会 場 淑徳大学千葉キャンパス

2 号館 3 階 302 教室

(所在地) 千葉市中央区大巖寺町 200

〔部会総会の成立〕

* 現会員数と出欠状況

	総計	出席	欠席届
機関会員	67	32	21
個人会員	35	6	7
総 計	102	38	28

* 総会定足数は、機関会員 67、個人会員 35 の総計 102 の過半数 51 である。

* 部会規約第 11 条第 5 項に基づき、欠席届を委任状とするため、出席会員数 (38) と欠席届提出会員数 (28) の合計は 66 となり、部会総会は成立した。

〔出席会員〕

愛知大学 お茶の水女子大学 学習院
 神奈川大学 國學院大學 国士館
 芝浦工業大学 淑徳大学 女子美術大学
 専修大学 創価大学 大東文化大学
 拓殖大学 中央大学 帝京大学 東海大学
 東京経済大学 東京農業大学 東邦大学
 東洋学園大学 富山大学 日本女子大学
 日本体育大学 日本大学 法政大学
 明海大学 明治学院 明治大学 明星大学
 立教学院 立教大学 立正大学
 早稲田大学 阿部伊作 近藤秀二

中村青志 林慎一郎 古郡信幸 松田栄作

(出席者合計 51 名)

〔配布資料〕

1. 総会次第
2. 2016 年度事業報告書
3. 2016 年度収支決算書
4. 2016 年度貸借対照表
5. 2017 年度事業計画書 (案)
6. 2017 年度収支予算書 (案)
7. 2017 年度総会参加者一覧
8. 会員名簿

開会の挨拶 池原 治氏

(会長 神奈川大学大学資料編纂室)

会場校挨拶 長谷川 匡俊氏

(学校法人大乗淑徳学園理事長
 淑徳大学アーカイブズ所長)

議長の選出 議 長 中川 壽之氏

(中央大学広報室大学史資料課)

副議長 小川 玲美子氏

(女子美術大学歴史資料室)

議 事 1. 2016 年度事業報告・同決算報告について

事務局 (立教学院) から、配布資料「2016 年度事業報告書」に基づいて、昨年度の事業報告があり、会計委員 (東海大学) から配布資料「2016 年度収支決算書」(7 頁【表 1】) に基づいて昨年度の収支決算が報告され、満場一致で承認された。

2. 2016 年度監査報告について

監査委員 (学習院) から決算が適正であった旨の監査報告 (8 頁

【表 1】

全国大学史資料協議会東日本部会

2016 年度収支決算書

2016 年 4 月 1 日～2017 年 3 月 31 日

【収 入】

(単位：円)

項 目	予 算	決 算	差 異	摘 要
会費収入	1,520,000	1,545,000	△ 25,000	
法人等会員	1,320,000	1,360,000	△ 40,000	68 機関分× 20,000 円
個人会員	200,000	185,000	15,000	36 名分× 5,000 円+ 2015 年度分 1 名 5,000 円 (※個人会員 2 名滞納)
利息収入	1,000	39	961	
預貯金利息	1,000	39	961	預金利息
参加費収入	445,000	392,000	53,000	
部会総会参加費	195,000	192,000	3,000	64 名分× 3,000 円 (5 月 26 日 東京農業大学)
全国総会参加費	250,000	200,000	50,000	40 名分× 5,000 円 (10 月 6 日～8 日 広島大学)
雑収入	0	0	0	
合 計	1,966,000	1,937,039	28,961	

【支 出】

(単位：円)

項 目	予 算	決 算	差 異	摘 要
運営費支出	120,000	22,491	97,509	
総会費	50,000	0	50,000	
幹事会費	20,000	3,591	16,409	飲料代等
部会研究会費	50,000	18,900	31,100	印刷博物館(研究会)入場料(42 名× 450 円)
謝礼支出	100,000	16,706	83,294	
講師謝礼等	100,000	16,706	83,294	叢書校閲謝金等
消耗品費支出	10,000	3,330	6,670	
消耗品費	10,000	3,330	6,670	事務用品代等
印刷費支出	350,000	190,242	159,758	
印刷費支出	350,000	190,242	159,758	会報 No.55、角 2 封筒(※会報 No.56 は次年度へ繰越)
通信費支出	120,000	160,735	△ 40,735	
事務連絡費	120,000	160,735	△ 40,735	会報 No.54 送料(※前年度未払金)、同 55 送料、切手料金等
手数料支出	10,000	2,916	7,084	
手数料等	10,000	2,916	7,084	金融機関送金手数料
参加費支出	600,000	320,920	279,080	
総会参加費	600,000	320,920	279,080	全国総会分担金、部会情報交換会等(西日本戻入 2,062 円)
旅費交通費支出	0	0	0	
旅費交通費	0	0	0	
事業費支出	600,000	281,691	318,309	
出版事業	300,000	199,548	100,452	叢書 17 号(※西日本分担金 99,774 円)
その他	0	0	0	
ホームページ事業	300,000	82,143	217,857	ウェブサイト契約料等(※西日本分担金 78,143 円)
ホームページ改善積立金	200,000	200,000	0	
30 周年記念事業 積立金繰入支出	0	0	0	
予備費	50,000	—	50,000	
合 計	2,160,000	1,199,031	960,969	
当年度収支差額	△ 194,000	738,008	—	
前年度繰越収支差額	1,515,338	1,515,338	—	
翌年度繰越収支差額	1,321,338	2,253,346	—	

【表 2】

2016 年度貸借対照表

2017 年 3 月 31 日

【資 産】

(単位：円)

項 目	本年度末	前年度末	増 減	摘 要
30 周年記念事業積立金	2,500,000	2,500,000	0	
三井住友銀行	2,500,000	2,500,000	0	三井住友銀行 経堂支店普通預金
ホームページ改善積立金	200,000	0	200,000	
三井住友銀行	200,000	0	200,000	三井住友銀行 経堂支店普通預金
銀行預金	2,195,082	1,477,887	717,195	
三井住友銀行	2,195,082	1,477,887	717,195	三井住友銀行 経堂支店普通預金
現金	58,264	37,451	20,813	
会 計 校	18,032	0	18,032	東海大学
事 務 校	24,552	0	24,552	立教学院
事 務 校	15,680	6,075	9,605	専修大学
Web 担当校	0	30,000	△ 30,000	明治大学
前 事 務 校	0	1,376	△ 1,376	神奈川大学
合 計	4,953,346	4,015,338	938,008	

【負債・収支差額】

(単位：円)

項 目	本年度末	前年度末	増 減	摘 要
負債	2,700,000	2,500,000	200,000	
30 周年記念事業引当金	2,500,000	2,500,000	0	
ホームページ改善引当金	200,000	0	200,000	
収支差額	2,253,346	1,515,338	738,008	
収 支 差 額	2,253,346	1,515,338	738,008	
合 計	4,953,346	4,015,338	938,008	

2017 年 4 月 1 日

上記の通り報告します。

会計委員 東海大学 椿田 卓士 ㊞

法政大学 秋山 彩子 ㊞

法政大学 古俣 達郎 ㊞

2017 年 4 月 17 日

監査の結果、適正と認めます。

監査委員 大東文化大学 浅沼 薫奈 ㊞

学 習 院 桑尾光太郎 ㊞

【表 3】

全国大学史資料協議会東日本部会

2017 年度収支予算書（案）

2017 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日

【収 入】

（単位：円）

項 目	2017 年度予算	2016 年度予算	増 減	摘 要
会費収入	1,525,000	1,520,000	5,000	
法人等会員	1,340,000	1,320,000	20,000	67 機関@ 2 万円（2016 年度は 66 機関）
個人会員	185,000	200,000	△ 15,000	35 名（2016 年度は 38 名 @5 千円）+ 2016 年度 滞納 2 名分 @5 千円
利息収入	1,000	1,000	0	
預貯金利息	1,000	1,000	0	銀行利息
参加費収入	445,000	445,000	0	
部会総会参加費	195,000	195,000	0	65 名 @ 3,000 円（2016 年度は東京農業大学 65 名）
全国総会参加費	250,000	250,000	0	50 名 @ 5,000 円（2016 年度は広島大学 40 名）
雑収入	0	0	0	
雑収入	0	0	0	
合 計	1,971,000	1,966,000	5,000	

【支 出】

（単位：円）

項 目	2017 年度予算	2016 年度予算	増 減	摘 要
運営費支出	100,000	120,000	△ 20,000	
総会費	40,000	50,000	△ 10,000	会場費・非課税講師交通費
幹事会費	20,000	20,000	0	会場費・設備使用料 他
部会研究会費	40,000	50,000	△ 10,000	会場費・入場料・飲料代 他
謝礼支出	80,000	100,000	△ 20,000	
講師謝礼等	80,000	100,000	△ 20,000	講演料、原稿料、源泉税、課税交通費
消耗品費支出	10,000	10,000	0	
消耗品費	10,000	10,000	0	事務消耗品費
印刷費支出	500,000	350,000	150,000	
印刷費支出	500,000	350,000	150,000	会報印刷費（前年度未払分 No.56 および No.57・58 年 2 回分）
通信費支出	180,000	120,000	60,000	
事務連絡費	180,000	120,000	60,000	会員連絡費、会報送料（前年度未払分 No.56 および No.57・58 年 2 回分）
手数料支出	10,000	10,000	0	
手数料等	10,000	10,000	0	金融機関振込手数料他
参加費支出	500,000	600,000	△ 100,000	
総会参加費	500,000	600,000	△ 100,000	情報交換会費その他（5 月部会総会、10 月全国総会）
旅費交通費	0	0	0	
旅費交通費	0	0	0	
事業費支出	350,000	600,000	△ 250,000	
出版事業	250,000	300,000	△ 50,000	叢書 18 号印刷費（東日本分担金）、その他
その他	0	0	0	
ホームページ事業	100,000	300,000	△ 200,000	維持管理金
ホームページ改善 積立金	200,000	200,000	0	ホームページのバージョンアップ・機能追加臨時 経費
30 周年記念事業 積立金繰入支出	0	0	0	
予備費	50,000	50,000	0	
合 計	1,980,000	2,160,000	△ 180,000	
当年度収支差額	△ 9,000	△ 194,000	—	
前年度繰越収支差額	2,253,346	1,515,338	—	
翌年度繰越収支差額	2,244,346	1,321,338	—	

【表2】があり、報告について満場一致で承認された。

3. 2017 年度事業計画・同予算案について

事務局（立教学院）から、配布資料「2017 年度事業計画書（案）」に基づいて、本年度事業計画案の説明があり、次いで会計委員（東海大学）から配布資料「2017 年度収支予算書（案）」（9 頁【表3】）に基づいて本年度予算案が説明され、審議の結果、事業計画・予算案とも原案通り満場一致で承認された。

4. 創立 30 周年記念事業について

事務局（立教学院）から、30 周年記念事業を推進するためのワーキング・グループには、会長・副会長・事務局・会計・ウェブ担当に加え、古くからの会員および近年加入した会員などで構成することが提案されるとともに、会員への協力が要請され、満場一致で承認された。

閉会の挨拶 小松 修氏

（副会長 日本大学企画広報部
広報課）

2017 年度総会ならびに全国研究会会場校挨拶

藤田 佳久氏（愛知大学）

ビデオ放映 「学祖・長谷川良信の生涯」

「大学 50 年のあゆみ」

見 学 学祖展・特別展・アーカイブズ
資料庫等

大巖寺宝物殿

〔概要〕 2017 年度東日本部会総会では、淑徳大学の学祖である長谷川良信と大学の歴史に関する映像資料のビデオ放映と見学会とが行なわれた。

視聴した「学祖長谷川良信の生涯」は、学祖長谷川良信の誕生から学生時代の生活、そして恩師との出会いを紹介し、「社会事業」への目覚めや教育事業にける情熱と取り組みなどをたどるものであった。一方の「淑徳大学 50 年のあゆみ」は、学祖の宿願がかない設立された淑徳大学のこれまでのあゆみを、時代背景に触れながら写真を用いてつづるものであった。

次いで淑水記念館に移動し見学会が行なわれた。記念館には「淑徳大学アーカイブズ」などの諸施設が入っており、アーカイブズの資料庫や学祖展、特別展を見学した。また、淑徳大学と深い関わりを持ち隣接する大巖寺の宝物庫や山門を訪れた。

これらはともに淑徳大学の特徴や歴史などを理解する一助となるものであった。（齊藤研也）

情報交換会 スエヒロ・カフェテリアにおいて情報交換会を開催した。淑徳大学学長の磯岡哲也氏から開催の挨拶が、中村青志氏から乾杯の発声があった。司会・進行は、法政大学史センターの秋山彩子氏が務めた。新規入会会員、初参加会員等の挨拶が

あり、会員相互の充実した情報交換の場となった。最後に、副会長・日本大学企画広報部広報課の松原太郎氏の閉会の挨拶があり、情報交換会を終了した。

全国大学史資料協議会

東日本部会幹事会議事録

第 163 回 2017 年 3 月 9 日 (木)

12 時 30 分～14 時 00 分

会 場 東京大学柏キャンパス総合研究棟

6 階・633 室 (大会議室)

出 席 学習院 神奈川大学 専修大学

東海大学 東京農業大学

日本体育大学 日本大学

法政大学 武蔵野美術大学

明治大学 立教学院

古郡信幸

議 題 (1) 2017 年度東日本部会総会について

- ・日本大学 (松原氏) より、当日のプログラム等について報告がなされ、4 月中頃に会員へ案内できるよう準備を進めることが確認された。

(2) 2017 年度研究会について

- ・会員アンケートの回答をもとに、年間テーマおよび研究会の内容について検討がなされた。その結果、年間テーマは、2016 年度と同じ「大学アーカイヴズの可能性」とし、各研究会においては、理論的なものに加え、資料の取り扱いを

はじめとした実務的な内容を取り上げていくことが確認された。

(3) 2017 年度総会ならびに全国研究会について

- ・年間テーマと併せて全国研究会のテーマについて検討がなされた。最も多かった意見が「新制大学について」であった。
- ・次回幹事会において、このテーマをもとに、内容や報告者について検討することが確認された。

(4) 創立 30 周年記念事業について

- ・会員アンケートの回答をもとに、事業内容について検討がなされた。
- ・方向性として、①ホームページの活用 (共同利用できるデータベース等)、② 30 年を振り返るシンポジウムや座談会、の 2 つの事業の実施が確認された。また、事業の実施へ向けては、ワーキング・グループを設置することが確認された。

(5) その他

- ・明治大学村松氏、専修大学瀬戸口氏、法政大学古俣氏より、情報共有のため、「明治 150 年」関連施策の推進について、「明治 150 年」関連施策各府省庁連絡会議) に関する報告がなされた。

第 164 回 2017 年 4 月 27 日 (木)

15 時 00 分～17 時 00 分

会 場 明治大学駿河台キャンパス

大学会館 3 階第 2 会議室

出 席 学習院 神奈川大学 國學院大學

専修大学 大東文化大学

東海大学 東京農業大学

日本大学 法政大学

武蔵野美術大学 明治大学

立教学院 古郡信幸

議 題 (1) 2017 年度東日本部会総会について

- ・事務局より、部会総会の日程およびスケジュールについて報告がなされた。情報交換会参加費に関しては、出席者確定後に決定、連絡することを確認した。

- ・事務局より、2016 年度事業報告書および 2017 年度事業計画書(案)の説明がなされ、了承された。

- ・会計担当(東海大学)より、2016 年度決算書および 2017 年度予算(案)について説明がなされ、一部修正の上、了承された。

(2) 2017 年度総会ならびに全国研究会について

- ・担当幹事の馬場氏が欠席となるため、事務局が代わって担当することを了承した。

- ・種々検討の結果、研究会テーマは「新制大学の誕生(仮)」とし、報告内容については、新制大学への移行期の個別事例を、資料を交えて報告することに決定した。発題は立教学院の豊田氏に決定し、個別事例の報告者については、事務局

局で調整することに決定した。

(3) 2017 年度研究会について

- ・7 月の研究会について、担当の日本大学より、日程は 7 月 20 日(木)、会場は東京大学史料編纂所を予定しているとの報告がなされた。

- ・12 月研究会について、担当の古郡氏より、日程は 12 月 1 日(金)、会場は清泉女子大学の旧島津侯邸を予定しているとの報告がなされた。

- ・事務局より、2018 年 1 月研究会の担当(武蔵野美術大学)、3 月研究会の担当(明治大学)の確認がなされた。

(4) 創立 30 周年記念事業について

- ・事務局より、ワーキング・グループの設置、ホームページを活用した企画(共同利用データベース等)及び 30 年を振り返る企画(シンポジウム、座談会等)を実施することが確認された。

- ・ワーキング・グループの設置については、部会総会で提案し、メンバーおよび企画内容については、7 月研究会で報告できるように進めることが了承された。

(5) その他

- ・事務局より、アート・ドキュメンテーション学会(JADS)シンポジウムの後援について説明がなされ、承認された。

- ・事務局より、会員の入退会について

て報告がなされた。

- ・事務局より、第 157 回幹事会（7 月 14 日開催）の議事録に記載漏れがあったため、差し替えたことが報告された。

- ・叢書・会報担当の國學院大學より、会報について以下の提案がなされ、了承された。

- ①研究会の記録担当が執筆する「概要」を掲載しない。また、記録担当は、参加記の執筆依頼、写真撮影を行う。依頼ができない場合は、記録担当が執筆する。なお、事務局から毎回記録担当者へ事前に確認の連絡を入れる。

第 165 回 2017 年 6 月 8 日（木）

13 時 00 分～13 時 30 分

会 場 淑徳大学千葉キャンパス

2 号館 3 階 302 教室

出 席 学習院 神奈川大学 専修大学

大東文化大学 東海大学

東京農業大学 日本大学

法政大学 明治大学 立教学院

古郡信幸

議 題 (1) 2017 年度東日本部会総会について

- ・事務局より、総会次第、担当者について確認がなされた。

(2) 2017 年度総会ならびに全国研究会について

- ・事務局より、報告者について現状

報告がなされた。

(3) 2017 年度研究会について

- ・7 月の第 105 回研究会について、担当の日本大学より報告がなされた。オブザーバーの研究会参加と、出版物に関するチラシの配布が了承され、幹事会の開催時間を 13:00、研究会の開始時間を 14:00 とすることが決定した。

- ・12 月の第 107 回研究会について、担当の古郡氏より詳細の報告がなされた。併せて、概要、講師への謝礼額、清泉女子大学職員の見学会参加が承認された。

- ・事務局より、2018 年 1 月の第 108 回研究会の担当（武蔵野美術大学）、3 月の第 106 回研究会の担当（明治大学）の確認がなされた。

(4) 創立 30 周年記念事業について

- ・事務局より、WG のメンバーについて提案がなされた。検討の結果、会長、副会長、事務局、会計、ウェブ担当に、古くからの会員や新しく参加した会員を加えることで了承された。

(5) その他

- ・編集担当の國學院大學渡邊氏が欠席の為、神奈川大学の齊藤氏より、前回提案された会報『大学アーカイヴズ』についての確認と研究会記録の担当について報告がなされた。今回の記録担当の馬場氏が欠

席の為、参加記の執筆を創価大学堀口氏が、記録の執筆を齊藤氏が執筆することに決まった。

- ・事務局より、幹事校の役割分担について報告がなされ、全国研究会の報告者数が増えたことにより、記録担当の変更があることが確認された。

- ・事務局より会員の入退会について報告がなされた。

- ・事務局より、次回幹事会、研究会について再度確認がなされた。

②会報の印刷部数を、現状の500部から400部に減らす。

③これまでの在庫について、各号30部を残して処分する。

④執筆者への寄贈は、現在5部のところを2部に変更する。

第166回 2017年7月20日(木)

13時00分～13時45分

会場 東京大学本郷キャンパス

情報学環・福武ホール 地下1階
大会議室

出席 学習院 神奈川大学 國學院大學

専修大学 大東文化大学

東海大学 東京農業大学

日本大学 法政大学

武蔵野美術大学 明治大学

立教学院 古郡信幸

議題 (1) 2017年度総会ならびに全国研究会について

- ・事務局より、報告者およびスケ

ジュールについて確認がなされた。会計校(東海大学)より、講演謝礼・会場費用・バスチャーター費用を確認してほしい旨、指摘がなされた。また、当日の司会者と第3報告者の選定を今後検討していくことが確認された。

(2) 2017年度研究会について

- ・12月の第107回研究会について、担当の古郡氏より説明がなされた。また、以下の3点について確認がなされ、すべて了承された。

①オブザーバーの出席 ②構内での入構札着用の徹底 ③会場使用料21,600円の支払い。

- ・2018年1月の第108回研究会の担当、武蔵野美術大学の阿久津氏より、会場を国際基督教大学とすることが報告された。

- ・3月の第106回研究会の担当、明治大学の村松氏より、会場を明治大学とすることが報告された。

(3) 創立30周年記念事業について

- ・事務局より、ワーキング・グループのメンバーについて確認がなされた。

(4) その他

- ・新規入会希望者の入会を承認した。
- ・次回幹事会を9月21日(木)明治大学にて15時から開催することを決定した。
- ・会計校(法政大学)より、会費の納入状況および7月31日が締め

切り日であることが報告された。

- ・第 105 回研究会について、事務局より記録係の確認がなされた。

第 167 回 2017 年 9 月 21 日 (木)

15 時 00 分～16 時 30 分

会 場 明治大学駿河台キャンパス

大学会館階 3 第 2 会議室

出 席 学習院 神奈川大学 國學院大學

専修大学 東海大学

東京農業大学 日本大学

法政大学 武蔵野美術大学

明治大学 立教学院

古郡信幸

議 題 (1) 2017 年度総会ならびに全国研究会について

- ・事務局より総会ならびに全国研究会当日の役割分担について確認がなされ、下記の 2 点を新たに決定した。

① 10 月 11 日受付担当：椿田氏 (東海大学)、秋山氏 (法政大学)、古俣氏 (法政大学)

② 10 月 11 日情報交換会司会：松原氏 (日本大学)

- ・事務局より収支報告書作成を西日本本部に依頼することが確認された。
- ・事務局より最終日のバス代・昼食代の処理・支払い方法についての確認がなされた。
- ・会計校 (東海大学) より講師への謝礼について質問がなされ、金額

を 2 万円とし、当日直接お渡しすることが確認された。講師には謝礼の受領印を持参してもらうよう、事務局より依頼することとなった。

- ・事務局より記録係の確認がなされ、10 月 11 日を明治大学、12 日第 3 報告を日本大学、13 日見学会を東海大学とし、第 109 回東日本本部研究会の記録係を馬場氏に変更することが決定した。

(2) 2017 年度研究会について

- ・12 月の第 107 回研究会について、担当の古郡氏より説明がなされた。

(3) 創立 30 周年記念事業について

- ・事務局より、第 1 回ワーキンググループの報告がなされた。第 1 回ワーキンググループでは、① 30 周年を振り返る座談会またはシンポジウム、② 現行のシステムを利用した会員校紹介および所蔵資料紹介 (アーカイブの公開) の 2 点について話し合わせ、下記のような検討がなされた。

① 30 周年を振り返る座談会またはシンポジウム

- ・来年度東日本総会に合わせて開催する。
- ・座談会・シンポジウムの結果を冊子化するかを考えていく。
- ・シンポジウムを一般公開し、開催日を従来の木曜日ではなく、土曜日とすることを検討

する。

- ・日程と会場は、12月までに決定する。

②現行のシステムを利用した会員校紹介および所蔵資料紹介(アーカイブの公開)

- ・2018年度内に、ホームページに構築する。
- ・使用の検討のため、業者に見積もり依頼をする。

(4) その他

- ・事務局より、会員の入退会について確認がなされた。
- ・会計校より、会費の納入状況についての報告がなされた。
- ・編集担当(國學院大學)より、総会・全国研究会の参加記について、下記のような確認がなされた。

①挨拶・発表・講演内容の文字起こしの流れ。

事務局が録音→業者にテープ起こしを依頼→データを編集担当に提出→挨拶・発表・講演をした本人が校正

②記録担当が写真を撮影し、編集担当に提出する。

③参加記はHP掲載分(1名)・会報掲載分(2名)・叢書掲載分(3名)の計6名に、事務局より執筆依頼する。次回以降、会報と叢書で同一の参加記を掲載することも検討。

全国大学史資料協議会

東日本部会研究会記録

第104回 2017年3月9日(木)

14時00分～16時30分

会場 東京大学柏キャンパス
総合研究等6階 633室(大会議室)

東京大学文書館柏分館

出席 お茶の水女子大学 学習院

神奈川大学 國學院大學

芝浦工業大学 淑徳大学

女子美術大学 聖路加国際大学

専修大学 東海大学

東京農業大学 東洋学園大学

日本体育大学 日本大学

法政大学 武蔵野美術大学

明治学院 明治大学 立教学院

中村青司 林慎一郎 古郡信幸

松田栄作

(以上30名)

会長挨拶 池原 治

(神奈川大学大学資料編纂室)

司会 桑尾 光太郎

(学習院アーカイブズ)

研究会テーマ 東京大学文書館柏分館見学

報告 「東京大学文書館の概要および実務について」

森本 祥子

(東京大学文書館准教授)

加藤 諭

(東京大学文書館特任助教)

宮本 隆史

(東京大学文書館特任助教)

〔概要〕 東京大学文書館は、東京大学百年史編集室として設置され、年史の完成と共に大学史史料室として設置。その後 2011 年の公文書法の施行に伴い東京大学文書館となり 2015 年に国立公文書館等として指定された。報告は、配付されたレジュメと提示資料に基づき、森本先生より、成り立ち、概要・理念・組織・施設・所蔵資料・目録の考え方について。加藤先生より、活動・法人文書の移管。宮本先生より、活動・デジタルアーカイブの構築・学内連携のとりくみ。再度森本先生より、これからのアーカイブズと年史編纂について報告された。国立公文書館等として指定されたことにより、資料収集のための所管への説明は容易になったが、公開の義務と期限が有る事の工夫と苦勞の紹介があった。法人文書の移管については、東京大学の文書管理規則（2011・4 制定）に、東京大学文書館を繰り込むこととし（2016・4）、管理簿を元に法人文書を評価・選別し、年 2 回の文書廃棄に合わせて、移管をしている。規則では文書館に廃棄権限を設定しなかった故の苦勞が紹介された。デジタルアーカイブについては、デジタル資産の生態系構築を念頭に、技術変化に対応しつつシステムの継続性を保てるよう構築を進めている。

報告後、事務室、閲覧室、保管庫、作業室等を見学した。（畑川直哉）

第 105 回 2017 年 7 月 20 日（木）

14 時 00 分～ 16 時 30 分

会 場 東京大学本郷キャンパス
情報学環・福武ホール 地下 1 階
大会議室

出 席 愛知大学 青山学院
お茶の水女子大学 学習院
神奈川大学 國學院大學
国際基督教大学 女子美術大学
聖心女子大学 専修大学
大東文化大学 拓殖大学
中央大学 東海大学
東京経済大学 東京農業大学
東邦大学 東洋英和女学院
東洋学園大学 東洋大学
獨協学園 日本女子大学
日本体育大学 日本大学
法政大学 武蔵野美術大学
明治大学 明星大学 立教学院
立正大学 早稲田大学
富田美加 林慎一郎 古郡信幸
松田栄作 益井邦夫
(以上 49 名)

会長挨拶 池原 治

(神奈川大学大学資料編纂室)

会場校挨拶 山家 浩樹

(東京大学史料編纂所長)

司 会 松原 太郎（日本大学）

講 演 ガラス乾板の資料学—写真資料の
調査・保存・利活用の実際

谷 昭佳氏

(東京大学史料編纂所 技術専門職員)

〔概要〕 はじめに東京大学史料編纂所の山家浩樹所長よりご挨拶があり、本所の活動概要について説明がなされた。続いて谷氏より「ガラス乾板の資料学—写真資料の調査・保存・利活用から」と題して報告がなされた。本報告は、現在東京大学史料編纂所において進めている科学研究費の成果によるもので、「ガラス乾板の歴史」、「ガラス乾板の整理」、「ガラス乾板の研究資源化」といった3つの視点から、ガラス乾板そのものがもつ「モノ」情報と制作プロセス情報を有機的に統合する必要性と方法、これらを踏まえて歴史研究からネガを検討する意義などが提示された。続く質疑応答では、デジタル化した際のデータ保存の方法、写真資料の保存方法や経費面に関する質疑がなされた。

講演後には、劣化の激しいガラス乾板を収めるために試作された平置型の保存箱、状態の良いガラス乾板を効率的に収めるために開発した縦置型の保存箱について、様々な状態のガラス乾板を実見しながら、保存や取り扱いの実際について解説がなされた。

(高野裕基)

訃 報

東日本部会機関会員武蔵野美術大学の瀬田徹さんが2017年7月1日に逝去されました。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

ご 案 内

全国大学史資料協議会および同協議会東日本部会に関するお問い合わせ、入会申し込みは、下記へご連絡ください。

【専修大学 総務部大学史資料課】

〒101-8425

東京都千代田区神田神保町 3-8

☎ 03-3265-5879

【立教学院 立教学院展示館】

〒171-8501

東京都豊島区西池袋 3-34-1

☎ 03-3985-4841

会 報 編 集

【國學院大学 校史・学術資産研究センター】

〒150-8440

東京都渋谷区東 4-10-28

☎ 03-5466-6677